

## ◆総務大臣賞◆

〈学校教育部門〉

## 『Japan UK Live!』を活用した日英国際交流学習

日英国際交流学習研究会（愛知県）

〒454-0921 名古屋市市中川区中郷4-235 名古屋市立一柳中学校

## ■実践事例報告の概要

日英国際交流サイト「Japan UK Live!」によって児童生徒が母語を使って日英交流を行った結果、①異文化理解に加え自国の文化や習慣の探究や理解につながったこと、②英語学習の必要性を感じさせ英語学習への意欲を引き出すことができたこと、③相手を意識した活動によりコミュニケーション能力が向上したこと、④情報モラルや情報機器の操作スキルが自然に身についたことという4つの成果が挙げられた実践に対する報告である。

## 実践のねらい

本実践では「Japan UK Live!」を活用することで、日本と英国という異文化の中で生きる子どもたちが、相手の国や自国の文化・習慣などに興味をもち、積極的な探究活動を進めることを目指している。

また、小学校への英語学習の導入、中学校以上では使える英語にも重点が置かれている現状もふまえ、英語学習への意欲向上にも役立つと考えた。日本にいてだけでは、なかなか英語を学ぶ必要性を感じることはないが、英語圏の子どもたちとの交流活動を通して、英語に対する興味関心を高める効果もねらっている。

## 特徴・工夫・努力した点

## (1)特徴

本団体は、日英国際交流サイト「Japan UK Live!」に参加している日本側の学校の教員で構成される研究会である。「Japan UK Live!」は、言葉の壁を感じさせない国際交流の場を提供するために、翻訳者を入れた交流サイトとして2001年にスタートした。

相手を身近に感じて交流できるため、コミュニケーション能力を高める指導や情報モラルの指導などにもつなげることができる（資料）。

## (2)工夫・努力した点

- ①「Japan UK Live!」の利点を生かして、教員が子どもたちや地域の実態に合わせたさまざまなタイプのカリキュラムを開発し、実践を続けてきた。
- ②自校と相手校のカリキュラムや活動目的を理解した上で交流を進めるために、翻訳つきの教員用メーリングリストを活用して、教員間の共通理解を図ってきた。

## 実践内容

「Japan UK Live!」では、参加校すべてが参加できる電子掲示板「みんなの広場」と、パートナー校と協力して共通のテーマで調べ学習を進め、自分たちのホームページを作る「いっしょにホームページ」を利用することができる。

## (1)実践例1 コミュニケーション能力の育成〈中学校「選択社会」での実践〉

愛知県・名古屋市立一柳中学校では、英国の交流相手に対して、家族の紹介や学校の紹介、季節の様子などを伝えた。自分の言葉で表現し合う中で、相手を身近に感じるようになり、友だちを意識した文章へと変化していった。

## (2)実践例2 外国を理解し、自国を理解する力の育成〈小学校「生活科」での実践〉

和歌山県・和歌山大学教育学部附属小学校では、日英の子どもたちの意見交換から、自国の文化や習慣にも興味をもち積極的な探究活動につなが



写真・2006年夏の研修会の様子（名古屋）

た。この実践では、相手校に日本の文化を伝えるビデオレターを作成した。本やインターネットで調査するだけでなく、自分の両親や祖父母などの年配者に伝統的な遊びについて話を聞きに行くなど、積極的に行動する姿を見せた。

### (3)実践例3 伝え合う力・書く力の育成〈中学校「国語科・選択国語」での実践〉

山形県・米沢市立南原中学校では、作文指導などで、相手意識や目的意識をもたせることによって、「主体的に書く意欲」を高めた。また、表現したい内容を練ることにより、そのために不可欠な「書く力」を高めた。

### (4)実践例4 英語学習への動機づけ〈小学校「総合的な学習の時間」での実践〉

兵庫県・市川町立甘地小学校では、交流相手を身近に感じるようになってきた子どもたちの中に芽生えた「もっと伝えたい」という意欲を生かして、英語での自己紹介カードや学校紹介の冊子、日本文化紹介DVD作成など、英語を使った活動に発展させた。

## 実践結果

### (1)成果

- ①相手に自国や自分の地域を紹介することで、異文化理解に加え自国や自分の住む地域の文化や習慣の発見・探究・理解につながった。
- ②英語学習の必要性を感じさせ、英語学習への意欲を引き出すことができた。
- ③相手を意識して意見を交換することで、コミュニケーション能力が向上した。
- ④相手と交流するという目的意識がはっきりした

学習を通して、情報モラルや情報機器の操作スキルが自然に身についた。

### (2)実践の発展

交流活動を進める中で、国内外の教員間のコミュニケーションの大切さを実感した。2006年8月に、日本国内の教員などを対象にして、実践発表や意見交換の場をもつために、富山、大阪、名古屋、長野、米沢で研修会を開催した（写真）。

## 考察（今後の課題）

### (1)交流学習と学習支援体制

一般的に、電子掲示板を設置しただけでは、情報発信は一時的に多くなるが、やがて下火になり学習が継続していかない場合が少なくない。「Japan UK Live!」では、翻訳者が、常に子どもたちの学習をモニターする学習支援者としても位置づけられている。教員用マージングリストなどの教員への支援も充実し、円滑な学校間交流を進めることができることから、多くの学校で継続した交流が続いている。

### (2)実践の今後の方向と課題

「Japan UK Live!」には現在、日英それぞれ30校ほどの参加校がある。今後は、実践の紹介や交流活動の課題の検討などを目的とした日英の教員間での交流を目指して、研究体制を充実していきたい。また、実践内容が多様化する中で、掲示板やホームページによる交流に加えて、子ども間、教員間のウェブ会議の活用を模索していきたい。

これによって、より直接的な交流が可能になり、さらに多様な実践を生み出すことができると考えている。